

# 優良農家の紹介

## 関西トップのストック産地リーダー

### はじめに

淡路市旧一宮町では、17戸が7haのストックを栽培している。ストックはすべて無加温の施設栽培で、年内どり+春（4～5月）どりの二期作と、1～3月どりを組み合わせた長期出荷を行っている。この産地のリーダーである阪口和義氏（阪和農園）を紹介する。

### 経営概要

年間労働力:本人・妻・母

経営面積

水田	101a		
施設	55a	パイプハウス	25a
		軽量鉄骨	30a

経営作目

施設ストック	90a	水稻	26.5a
メロン	15a	スイカ	10a
促成菊	5a		

阪口氏は、1973年構造改善事業により畜産からストック栽培に経営を転換した。10aのビニールハウス1棟から始まり、1999年にリースハウス20aを導入し、施設の高度化利用と省力化、施設環境の改善により経営の安定化を図っている。

妻の羽津美さんも1999年にストック栽培農家の女性で結成した「はなまるミセス香りグループ」の中心的な存在であり、女性の視点から経営改善に取り組み、阪口氏を支えている。



阪和農園の全景

### 高品質生産への取組

淡路市のストックは、年内～春にかけての長い出荷期間が特徴で、特に春の二期作は病害等により作柄が不安定となりやすい反面、競合産地がないので貴重な産地として市場からの期待も大きい。

ストックは育苗時に商品価値の低い一重咲きを抜き取る八重鑑別作業が必要で、熟練を要する。この作業は主に女性が行い、通常播種後2週間目

に1回の鑑別で約6割を抜き取るが、阪口家ではさらに2度目の鑑別を行い、また定植時にも生育が悪いものは除いている。徹底した育苗管理を行うことで、採花時期にはほ場一面に八重咲きのストックが咲き揃い、圧倒される。

妻の羽津美さんは採花作業の労働軽減という課題を「はなまるミセス香りグループ」で取り組んだ。2002年には収穫・運搬時間が60%短縮できる「はなまる台車」を考案し、導入した。今では、淡路の比較的規模の大きな農家に普及している。

### 産地基盤の強化のために

淡路は温暖で秋の気温が高いため、年内に出荷できる品種が少なく、年明けから春が主な出荷時期となっていた。そこで阪口氏は年内に高品質なストックを出荷することで所得向上を目指した。淡路農業技術センターの研究成果をもとに、植物成長調整剤（ビピフルフロアブル）による年内出荷技術に2006年から取り組んだ。ほ場で現地試験を重ね、好成绩を得たことから、現在、部会員にも普及している。

また、淡路ストック研究会に所属し、2005年からオリジナル品種育成にも取り組んでいる。淡路の気候に適した茎が固く、花穂が締まった品種の作出を目指して活動している。

### 後継者に引き継ぐために

現在、長男が農業者大学校で学んでおり、2009年3月に卒業して、就農予定である。阪口氏は長男の就農に向け、夏ギクの促成栽培も導入し、年間出荷を通じた経営の安定化を図ろうと検討している。また、就農後には家族経営協定を結び、家族の誰もが自信を持てる、ゆとりある農業経営を目指している。

富澤 泉（北淡路農業改良普及センター）  
（問い合わせ先 電話：0799-62-0671）



はなまる台車による採花作業風景

## ひょうごの農林水産技術 No.161

平成21年1月1日（隔月刊）

兵庫県立農林水産技術総合センター（0790）47-2400